

新任校長雑感

五ヶ瀬町立三ヶ所小学校

校長 古賀正洋

県の北西部に位置する五ヶ瀬町は、自然豊かで人情あふれる町である。日本最南端のスキー場やワイナリー、特産品のお茶などが有名で、町内には、小学校4校、中学校1校、県立の中等教育学校が1校設置されている。

4月にこの町に赴任して強く感じたことは、子どもたちが素直に育っていることと、学校と地域のつながりが強いことである。

まずは、素直に育っている子どもたちである。

赴任した五ヶ瀬町立三ヶ所小学校は、児童数54名、職員数15名の学校である。朝から、子どもたちの元気なあいさつが響きわたり、多くの児童が様々なボランティア活動に取り組む。

私も一緒に清掃活動に取り組むが、この時間に、子どもたちがいろいろな話を聞かせてくれる。見かけた生き物のこと、今日の学校での楽しみ、兄弟の様子、眺めた星空の話、小さい頃の思い出、じいちゃんやばあちゃんから聞いた話……。本当に子どもらしい視点で、素直に感じたことや思ったことを聞かせてくれる。この時間が、私にとって何よりの栄養剤である。

子どもたちの生き生きとした表情を見る度に、この子どもたちにとって学校が、毎日笑顔で登校し、笑顔で下校できる場所となるように、職員一丸となってがんばらなければならない、と強く思う。

次に、学校と地域のつながりである。

五ヶ瀬町の学校教育の理念は、「地域があって、子どもがいて、学校がある」であり、また、町立学校共通の教育目標として、「五ヶ瀬を愛し、ともに学び合い、ふれあい、高め合う子どもの育成」を掲げている。地域と共に歩み、地域に貢献できる学校教育の推進が求められている。

町内4校の小学生が学年ごとに集まって学習する「G授業」では、梅やヤマメ、お茶やぶどうなど、地域の自然や産物を素材とした学習が展開されていて、そこに多くの地域の方々が協力していただいている。子どもたちは、このG学習を通して、自分が生まれ育っている五ヶ瀬町に対する理解を深め、ふるさとの愛着と誇りも身に付けている。

また、本校独自の教育活動に対しても、地域の方々から多くの支援や協力をいただいている。例えば、茶摘みや田植えといった体験活動では、専門の方々が子どもたちに指導していただいている。さらに、人生の先輩から職業観や生き方を学ぶ「未来へのとびら（キャリア教育）」では、毎年、様々な方に講師を務めていただいている。この他にも、平日の夕方に行われる奉仕作業には、保護者の方々に加え、地域の方も参加していただいている。

このように素直な子どもたちや協力的な地域といった恵まれた環境の中で、学校は地域の期待にどう応えるか、地域の宝物である子どもたちをどう育てるか、常に頭において、微力ではあるが、しっかりと学校経営にあたりたい。

そして、私自身も地域の一員として地域に誇りと愛着をもって、五ヶ瀬町での生活を楽しまたいと考えている。